

ライフル射撃アジアユースゲームズを経験して

南砺福光高等学校 3年 長谷川 智彦

私は8月に中華人民共和国の南京で開催された第2回アジアユースゲームズの射撃競技に日本代表として出場しました。

私のライフル射撃競技歴の中で初めての海外大会だったので、緊張があり、試合が始まる前は自分がいつもどおりの射撃をすることができるのかという不安でいっぱいでした。しかし、試合が始まる前に落ち着いて心の整理をしてみると、このような舞台で射撃ができるのは数少ないチャンスであり、また自分の実力がどこまで通用するのかを知ることができる貴重な機会でもあると思いました。自分の今持っている力を出し切って悔いの残らないような試合にしようと考え直すと、体の緊張もほぐれ、不安もなく、前向きな姿勢でこの大会に臨むことができました。

試合ではいつも以上の力が出せたわけではありませんでしたが、変なミスをすることもなく、またマイナス思考に陥ることもなく、自分の今出し切れる最高の集中力で臨み、私が日頃から目標としている「いつもどおりの射撃をする」ということを達成できました。しかし結果は60発の総合計612.7点で、37人中10位となり、目標にしていたファイナルに進出できる8位には、あと0.7点足りませんでした。このことから、今の私の実力では世界という舞台においてトップの選手と渡り合える力はあと少し足りないのだと再認識することができました。また10位という順位は、これからさらに精進して実力をつければ世界を舞台に活躍できるのだと実感しました。

私はこのアジアユースゲームズ大会出場を通して自分の今の実力と世界のトップアスリートの実力との違いを感じることができました。この貴重な経験をこれからの射撃に生かし、今まで指導して下さった方々への感謝の気持ちを大切にして、近い将来に世界の選手たちと互角に渡り合えるようになります。



第5回女子ユースハンドボールアジア選手権を経験して 高岡向陵高等学校 2年 奥田 結菜

私は9月にタイ・バンコクで開催された第5回女子ユースハンドボールアジア選手権に出場しました。外国選手を相手に戦った経験もなく、どれだけ大きな人がどんなプレーをしてくるのか、また、自分のプレーがどこまで通用するのかと緊張と不安でいっぱいでした。反面、初めての体験に楽しみな気持ちもあり、失敗を恐れず、自分のできることをやればいんだと、自分に言い聞かせて試合に挑みました。

大会は総当たりのリーグ戦で行われ、初戦はイランでした。体格も大きく、力で攻めてくるようなチームで、最初は戸惑いましたが、時間経過とともにその力を上手くかわして、逆に差をつけていくことができ、結局は全員がコートに立ち勝つことができました。続くタイ、カザフスタン、ウズベキスタン戦も、苦しい場面がありましたが、勝利することができました。

5戦目の相手は中国でした。勝てば来年開催される世界選手権の出場権獲得という大事な試合でした。チームには今までで一番の緊張感がありました。中国は平均身長も高く、私たちはロングシュートを警戒していました。試合では、前半からみんなで声をかけあい、失点を最小限にすることができました。攻撃も良いペースで得点でき、無事に世界選手権出場を決めることができました。

そして最終戦の相手は韓国でした。お互いが全勝でこの試合をむかえていたので勝てば優勝という試合でした。韓国は過去4回のユースアジア選手権をすべて優勝していて、日本はすべて2位ということでした。私たちは、先輩たちができなかった韓国戦勝利をぜひつかもうと挑みました。しかし、韓国とはスピードやパワーが違い、前半から離されてしまいました。それでもあきらめることなく戦いましたが追いつくことができず、結局新しい歴史を作ることができませんでした。

今大会は2位という結果で終わってしまいましたが、世界と戦ったということで自分自身の一つの成長に繋げることができ、同じ目標をもったたくさんの仲間ができました。来年の世界選手権への出場は決めることができましたが、もう一度私が代表に選ばれ、世界選手権のコートに立てるように、また、支えて下さっている方々への感謝の気持ちを忘れずに、この経験を活かして日々頑張っていきたいと思います。

